

県中教研 技家(家庭)部会だより

第 38 号

発行日 令和5年3月
発行所 富山市千歳町1-5-1
富山県中学校教育研究会
編集責任者 山崎 陽江
題 字 金山 泰仁 先生

「問題意識の変化 新たな課題の設定」

指導主事 吉田みづき

東部地区研究大会では、指導事項「生活の課題と実践」を扱った題材の授業を参観しました。「食生活、衣生活、住生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて計画を立てて実践できる」という、まさに問題を解決する力そのものの育成が目指されるこの指導事項は、一層の充実を図るようにと指導要領に示されています。

見いだした問題を解決するために取り組むのが「課題」です。解決の必要性を感じる問題を発見したとき、課題に取り組む目的がはっきりし、前のめりの課題解決がスタートします。

研究大会の授業は、一人一人が設定した課題とその解決方法について、自分の計画を検討し直す時間でした。「我が家の防災対策はまだまだだ。災害が起こっても安心安全な暮らしを実現するためには、取り組まなければいけない課題がある。」授業の終末に、自分の活動を振り返った生徒の言葉です。1人1台端末を使って課題を解決するための有力な情報を探したり、互いに助言したりして解決の方法を検討しているうちに、問題意識自体に大きな変化が生まれ、我が家の防災対策に新たな問題を発見したのです。我が家の実態に合った取り組むべき課題を再設定した生徒の姿でした。

現状において何が問題であるのかという認識の質的な高まりは、我々が生徒に与える話題や資料等も大きなきっかけとなりますが、個に合った活動や、他の人と関わり合う活動の充実は、それを超えるほどの効果があるのだな、と感じさせられた授業でした。

課題解決に向けた実践の積み重ねで身に付けた資質・能力が、これからの人生で「いきてはたらく力」となるよう、今後も、生徒の問題意識の高まりや変化が生まれる授業が展開されていくことを願っています。

(東部教育事務所)

家庭科で「つなぐ」子どもの思考

部長 山崎 陽江

中学校1年生になった息子の家庭科の宿題は「我が家のお雑煮を調べ」でした。我が家のお雑煮の由来、昆布だしでとるだしのうま味、食材の彩りや香りを出す調理の工夫、家族への思いなどを祖母に聞きながら、「へえ、なるほど。だからおいしいのか!」と納得した様子で、お雑煮をじっくりと観察しながら、おいしそうにほおばっていました。「授業で学んだ知識×体験×思考」がつながり、螺旋型に思考が深まっていく姿を目の当たりにして、これぞ家庭科の醍醐味だと感じました。家庭科は、衣食住、消費・環境、家族と家庭生活等、様々なテーマの中で体験と思考をつなぎ、社会と自分をつなぎ、基礎と応用をつなぎ、領域をつなぐことで生活にいきてはたらく力を付けていく教科です。授業では、ねらいに応じて思考と何をつなぐのかが重要なカギになります。

今年度の第67回研究大会の東部地区研究授業では、我が家の防災対策について課題と実践の授業を行いました。子どもたちは、我が家の防災対策について調べた体験と友達の意見を比較したり、これまでの既習事項を生かしたり、新聞記事から社会と自らの生活をつなげたりしながら思考する場面が多く見られました。このような学習を通した子どもたちが、今後も防災対策について、生活の中で考え、必要性を実感し、自らの家族や生活に働きかけていくであろう姿が想像できました。その他、授業力向上アドバイザーの講演、西部地区の先生方による研究発表やプログラム体験等、授業改善の手がかりをつかむ貴重な機会を得ることができました。

今後とも家庭科の授業を通して、子どもの思考をつなぎ、自らの生活を主体的に営む生徒の育成を目指して、技術・家庭科部会の皆さんと共に研究を進めてまいりたいと思います。

(富・藤ノ木中)

第67回 研究大会報告

東 部 地 区 10月12日(富・西部中)

富山市立西部中学校において近島直美教諭による研究授業「我が家の防災対策プロジェクト～我が家の防災力をパワーアップさせよう～」が行われた。我が家の防災対策を見直し、課題を設定した。そして、この課題を解決するために班で話し合い、家庭での実践も踏まえて、よりよい生活にするための新たな課題を考える活動を行った。

家庭での実践を評価・改善するに当たり、類似する課題をもった生徒同士で班を編成した。そして、家庭での実践を一人1台端末のプレゼンテーション機能を用いて発表し、互いに評価し合った。その際、友達の発表の参考になる点を一人1台端末の付箋機能にまとめ、意見交換を行った。生徒はこれまでの学びを基に、自己の課題解決に向けての思考を重ね、改善策を発表した。また、友達の意見を聞き、どの情報が自分にとって生かせるものであるか判断しながら課題の追究を行うことができた。



吉田みづき指導主事(東部教育事務所)からは、「学習指導要領に基づいて、指導事項を確認し、題材の学習で身に付ける資質・能力を明確にして指導を計画することが大切である。題材を貫く課題の設定によって学びの連続性が生まれ、生徒は思考を深めることができる」と助言をいただいた。

部会協議では、授業力向上アドバイザーの杉山久仁子先生から、自分で考え、行動できる子供の育成に向けて、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善とその評価の在り方についてご教授いただいた。

中野 沙耶(富・三成中)

西 部 地 区 10月11日(高・牧野中)

高岡市立牧野中学校において、高岡市、射水市、砺波地区それぞれの研究発表と、北國銀行の中村美都里氏による消費生活に関する講習会を行った。

高岡市からは、南星中学校の金田侑子教諭が授業実践「家族に合わせたよりよい住空間の使い方を考えよう」について、発問やヒントの提示のタイミング、生徒の意見のまとめ方等、市の研究大会で協議されたことを整理し、よりよい授業をするための改善点も踏まえて発表した。射水市からは、小杉中学校の伊藤雅恵教諭が授業実践「幼児の遊びと発達の関わりを知ろう」について発表し、デジタル絵本を取り扱った学習内容からは、生徒の実態に合わせて教材教具を工夫することの示唆があった。砺波地区からは、石動中学校の長谷川文代教諭が題材「幼児の生活と家族」について、指導と評価の計画と、課題解決に向けた動画を活用した学習活動の工夫について発表した。特に動画教材は、どれも授業で有効活用できそうな内容であった。各発表からは、日頃の取組や授業実践、それぞれの郡市で進めている研究について情報共有ができ、有意義な研修となった。

講習会では「自立した消費者になるために正しい金融知識を学ぼう」と題した中学生向けのプログラムを体験した。中学生の実態を捉え、かつ学習指導要領を踏まえた内容であり、限られた時間の中で、必要な知識を正しく教える上で効果的な研修であると実感した。また、外部機関との連携を深めるよい機会となった。



←講習では自分の端末を利用し、返済シミュレーションを行った

小池 千恵(氷・西條中)